



社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

特集：愛徳姉妹会の歩み・療育部 医療的ケアの取り組み

葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第26号

■ごあいさつ

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長
梶浦 一郎



例年のない急激な猛暑の到来のもと、皆様方体調は如何ですか。

多くの熱中症の発生が報告されています。職場の皆様は勿論ですが、障がいをもった利用児・者の方々も十分ご注意ください。

そのうえ、九州においては洪水災害で多くの方々が無くなられたり被災されています。

心からお見舞い申し上げます。私たちも健康や防災に十分気を付けて仕事を続けましょう。



■葦の発刊に寄せて

大阪発達総合療育センター副センター長、
医療型障害児入所施設フェニックス園長

船戸 正久



長年大阪発達総合療育センターの発展、とくに看護部の発展に貢献いただいた市村由美子前理事長補佐、杉浦みき前看護部長が退職され、新たに中山昌美氏が看護部長、稲田律子氏が看護部次長に就任しました。今後引き続きセンターの発展に貢献して下さることを心から期待しています。

また5月1日のセンターの創立記念日には東住吉消防署のご協力の下恒例の災害訓練を行いました。休日にも関わらず約120名の職員が参加し、実りある訓練ができたことを感謝します。

3年前から当センターでも介護職員等の喀痰吸引等研修を進め、介護職員も医療的ケアに積極的に参加できる体制の整備に努めています。成立予定であった総合福祉法では、医療的ケアは「医療行為」ではなく「生活支援行為」と位置付けられています。是非皆様のご理解とご協力を宜しく願います。



就任挨拶

看護部長

中山 昌美



4月から看護部長に着任しました中山昌美です。

今までは、看護師と看護教員をしてきました。病院は急性期病院で、毎日のように手術・検査があり、在院日数も短く、入退院が多く、毎日が目まぐるしく動く生活でした。

このセンターに来るきっかけはある方の紹介でした。小児をやってみないと言われて、私は正直「小児看護を教えたことはありませんが、小児看護の実践の経験がないので無理です」とお答えしました。一度センターの見学に来てくださいと言われて、見学に來させていただきましたが、職員の方々が生き生きと働かれていて、子供たちの笑顔やかわいさに感動しました。また、梶浦理事長の脳性麻痺や肢体不自由児への熱き思いをお聞きして、このセンターで働こうと思いました。

着任して3ヶ月、まだまだわからないことばかりで福祉の勉強もしていかなければいけません。一生勉強です。今はセンターでの仕事以外に大学院の研究生をして研究もしています。皆様勉強することは楽しいですよ。一緒に勉強をしましょう。

当センターでは、本当に多くの職種の方が働かれています。働く人たちが助け合って協働できるように働きやすい職場環境を作れるようにしていくことが課題です。みんなが働きやすい職場になってきたと思えるように努力していきたいと思っています。

そのために6つの精進、①努力②謙虚③反省④感謝⑤善行⑥よくよしないをモットーに頑張っていきたいと思っています。皆様よろしくお願ひいたします。

療育部長兼看護部次長

稲田 律子



私は平成27年4月、通園部部長として就職し、本年度4月から療育部長 兼 看護部次長に任命されました。

総合病院の看護師として長年勤務し、平成27年に縁あって福祉と医療との複合型の当センターに就職しました。就職当初は対象となる利用者様の違い、医療と福祉の違いに戸惑い、かつ働いているスタッフの職種の多さ、特殊性に驚きました。通園部スタッフは多くが保育士、あるいはケアスタッフであり、看護師が少ないのが現状です。病院看護しか経験のない私には多職種の専門的な仕事は十分に理解できていないのに、アドバイスするなど迷惑をかけることも多々あったと思います。しかし、二年余りの間に福祉のこと、職種による専門性の違い、多職種とのつながり、協働して働くことの重要性を色々学ばせていただきました。

本年度改めて療育部長として就任し、通園スタッフだけでなくセンター内の療育スタッフのコーディネートを任されました。看護部次長という役目も担っています。わかばやフェニックス、歯科、洗濯室も担当になり、今まで以上に多くの職種との関わりが増え責任の重さを痛感しております。

当センターの「すべての人が持つ通常の生活を送る権利を、可能な限り障害者に保障する」という理念が多職種協働のチーム活動の中でうまく機能できるよう、そして、やりがいある職場を皆さんと一緒に作っていきたく思っております。よろしくお願ひいたします。

教育研修部科長、
看護部・療育部教育担当

平林 潤子



4月の異動に伴い、教育研修部科長、看護部・療育部教育担当を任命されました。

研修委員会では職員対象の研修企画・運営を諸先生方と共に担って参ります。

教育担当の役割は主に院内教育のプログラム策定、企画～評価です。これは組織活動に影響すると理解し、「考えるべきこと」を思案しています。

組織化には組織の理念・目標の共有と多職種協働が必須です。私はセンターでの看護・療育・活動の認識の相違を若干感じています。

「人は見たいように見、聞きたいように聞き、解釈したいように解釈する」と言われます。

まず、互いの専門性・役割を知ることができる枠組みを作り、互いの専門性を尊重し対象者を中心に対話できることが重要と考えました。そこに必要な基礎力を研修に加え、私も共に学んでいきたいと思っています。

任命され早3ヶ月過ぎます。私は長年、看護教育に携わりセンターで働くのに必要な知識や臨地教育についてはまだまだ未熟で目標達成できるか不安です。そのような私に一步踏み出す勇気をくれたのは、職員の方々の重症心身障がい看護・療育への熱い思いと、何より利用者の方が希望を持って生活されている姿に触れることができたからです。

諸先輩方からも指導を賜り、学ぶ環境作りを目指していきたいと考えています。皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。

愛徳姉妹会の歩み、榎山悦子シスターの講演を受けて

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長 梶浦 一郎

平成29年5月16日(火)に、愛徳姉妹会の榎山悦子シスターを迎えて、愛徳姉妹会の歩みについて、講演頂きました。

1933年(昭和8年)に、聖ビンセント・ア・パウロ愛徳姉妹会として設立され、当時は、無料診療、病人訪問、託児所、児童への給食等のサービス提供を行っておられました。

太平洋戦争前の混乱の中での船出であり、戦争による影響からの食料不足、伝染病の流行等数々の試練を迎えますが、戦争で親族を失った子供達や女性達の為に、活動領域は広がっていきます。

戦後、大阪市内は病院不足であり、結核患者受け入れの為の施設、聖母病院を建設。

結核患者20床、一般患者20床の規模で、大阪市役所社会部保護係からの紹介による、生活保護者中心の受入れを行って

きました。

その後1968年に聖母病院は廃止となり、1970年5月から肢体不自由児施設聖母整肢園の開設を経て、現在に至ります。

当センターを運営している愛徳福祉会の母体法人であり、土地、理事参加などあらゆる面において協力と援助を受けている愛徳姉妹会の歴史を知る貴重な機会を頂く事ができました。

このように、このセンターは多くの人たちの力で支えられている事を常に感謝しながら、働くことが大切です。



療育部 医療的ケアの取り組み



療育部療育科 科長補佐

山口 一平

平成24年度に障害者総合支援法が施行されると同時に、介護職員等による喀痰吸引等研修も開始されました。この背景には、ALS患者の在宅療養の支援や特別養護老人ホームにおける医療的ケアの拡大が社会問題になったことが、法改正の大きな要因となっています。ALS患者や高齢者に限らず、当センターの利用者も同様に年々障がいの重症度が深まるようになり、施設内や在宅での医療的ケアが重要な課題となってきています。

当センター内の入所事業は、看護師等が常駐しており、医療的ケアを十分に実施しています。しかし、訪問介護事業〈めぐみ〉や生活介護事業〈なでしこ〉においては療育職員が中心に担っており、世間と同様に医療的ケアの課題を抱えています。

そこで、療育職員に喀痰吸引等研修の受講を積極的に進めています。現在では訪問介護事業〈めぐみ〉では1号研修修了者が2名、3号研修修了者が2名勤務しており、在宅支援をより充実させています。また、生活介護事業〈なでしこ〉では3号研修修了者が4名勤務しており、通所中の送迎車内での吸引を実施し、より安楽な通所のサポートができています。更に、入所事業の職員の受講も随時進めており、療育職員全体での技術向上も図っています。

今後もより多くの利用者に、重症な障がいをお持ちになられても地域でいきいきと暮らしていけるサポートに努めてまいります。

第七回中国北京ボバース概念 小児領域イントロダクトリ講習会の報告

リハビリテーション部 黒澤 淳二



2017年5月1日から5日までの5日間、中華人民共和国、北京市の中国リハビリテーション研究センター（中国康復研究中心；China Rehabilitation Research Center, 以下CRRC）において、ボバース概念小児領域イントロダクトリ講習会が開催されました。

本講習会はリハビリテーション部顧問、紀伊克昌先生がご指導された中国からの留学生の熱意に応え、7年前からCRRC主催として開始されたものです。

私は昨年、紀伊先生と共に講師を務め、内容を引き継ぎ、今年は第1回から5回までの指導経験をもつボバース記念病院の永島智里女史と赴きました。

受講生は中国各地で奮闘する理学および作業療法士37名で、知識と技術を習得しようとする貪欲さには、昨年同様とても感動しました。

中国においても子どもたちの状態像はより複雑化していると思われます。実際にお子さんと家族にご協力いただいたデモンストレーションでは、姿勢運動制御を目的としつつ、認知特性、環境への配慮、そして両親支援を考慮した展開が要求され、講義や実技の内容を実際に共有する時間になりました。

国や文化は違えど身体を通して伝えあう…セラピストの原点に還り、微力ながら国際交流の一躍を担えるとても貴重な経験をさせていただきました。

5/1 創立記念日災害訓練の報告

事務部 総務課長 義本 弘和

大阪発達総合療育センター創立記念日の5月1日、毎年恒例の災害訓練を実施しました。

今回は、大規模な地震が発生し、建物にも甚大被害がでて火災も発生する想定で、災害対策本部を設置し、本部は各部署からの被災状況の報告を受け全体の把握、職員による二次消火活動、人形・模擬患者での各階から駐車場への避難訓練で、創立記念日の休日にも関わらず約120名の職員が参加し皆真剣に訓練に取り組んで、階段での避難の大変さを実感できました。近年発生が予想される東南海地震など大規模災害への対応にはこういった訓練が非常に有効で、今回で分った問題点を考慮し、今後も継続していきたいと思えます。

また、訓練の終わりには昨年と同様、東住吉消防署のご協力によりまして、はしご車で管理棟屋上からと、はしごによる2階の窓からの救出デモ、放水訓練の見学、その後には水消火器での消火訓練、火災時の煙を実際に体験、また、AEDを使用する心肺蘇生術の講義をしていただき非常に有意義な訓練となりました。

東住吉消防署の皆様、事前準備の段階から大変お世話になり本当に有難うございました。



イベント

フェニックスとまでしこにて運動会が開催されました。
6月17日は3階病棟、25日は4階病棟、28日はなでしこにてそれぞれ開催され、熱い戦いが繰り広げられました!



運動会開催!



平成29年度永年勤続表彰

平成28年5月2日から平成29年5月1日までの間に勤続20年または勤続10年となる職員に対して梶浦理事長より表彰状・副賞が授与されました。

勤続20年	2名	飛地 洋美 田坂なお子	リハビリテーション部作業療法科 副主任 療育部療育科なでしこ	作業療法士 介護福祉士
勤続10年	13名	菊山 尚子 星原 和幸 香月みよ子 門田 早苗 松見 良平 廣澤 真樹 田端真記子 桐島 直子 嘉納 歩美 米持 喬 曲 洋子 山田ゆかり 瀬尾麻理子	医療技術部薬剤科 医療技術部臨床検査科 看護部 師長 医療安全担当 看護部訪問看護ステーション 療育部療育科フェニックス4階病棟 主任 療育部療育科フェニックス3階病棟 療育部療育科フェニックス4階病棟 療育部療育科あさしお園 療育部療育科あさしお園 リハビリテーション部作業療法科 科長補佐 リハビリテーション部理学療法科 副主任 リハビリテーション部作業療法科 副主任 事務部医事課リハビリテーション部担当 副主任	薬剤師 臨床検査技師 看護師 看護師 介護福祉士 介護福祉士 介護福祉士 保育士 保育士 作業療法士 理学療法士 作業療法士 事務

職員研修実施状況

H29年4月～H29年6月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成29年4月3日(月)～7日(金) 9:00～17:30	教育研修部	平成29年度新入職員研修 (兼 平成28年度中途採用者研修)	梶浦一郎理事長他	35名 随時参加あり	5階ホール
平成29年4月27日(木) 17:40～18:40	教育研修部	「療育に役立つ モンテッソーリメソッドってなあに?」	医務部小児科 羽多野わか 看護部わかば病棟 西本博美	90名	5階ホール
平成29年5月1日(月) 10:00～12:00	災害対策委員会	防災訓練(火災)	東住吉消防署	120名	5階ホール
平成29年5月11日(木) 17:40～18:40	感染管理委員会	感染管理対策研修 「感染対策について～手指衛生と個人防護具～」	大阪府済生会泉尾病院 感染管理認定看護師 田中ちよ氏	145名	5階ホール
平成29年5月16日(火) 17:40～18:40	教育研修部	「愛徳姉妹会の歩み ～聖心セツルメント聖母病院から聖母整肢園へ～」	社会福祉法人愛徳姉妹会 植山悦子氏	87名	5階ホール
平成29年5月23日(火) 17:40～18:40	経営会議	事業説明会	鈴木恒彦センター長 山口備事務部長	114名	5階ホール
平成29年6月5日(月) 17:40～18:40	教育研修部	人権研修「意思表示できない人の 最善の利益をどう考えるか」	大阪市立大学大学院 看護学研究科 准教授 服部俊子氏	97名	5階ホール
平成29年6月24日(土) 9:00～17:00	運営局・ 教育研修部	「管理職研修」	株式会社インソース 青木朋博氏	27名	5階ホール
平成29年6月30日(金) 17:40～18:40	リハ部・看護部	保護者より更衣介助の負担軽減を相談された入院事例 -病棟チームでの更衣練習とポジショニングの取り組み-	リハビリテーション部 辻薫次長(OT)、西村将人(PT)	43名	PT室

感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

「寄付金と寄付物品」

一般寄付金

月	寄付者(敬称略)
4月分	井上 明生 浅野 小五郎 藤井 真希 4月分楽基金 7件 国際VOP 株式会社 大阪一中央
5月分	井上 明生 5月分楽基金 2件
6月分	6月分楽基金 13件

寄付物品

月	寄付者(敬称略)	物品名
4月分	匿名	バギー
5月分	匿名	おもちゃ 絵カード(治療用)



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524